

【安息日の神髄】

名前 _____

【聖書箇所①】申命記 5:12～15(新改訳聖書第3版)

5:12 安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、【主】が命じられたとおりに。5:13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。5:14 しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も——そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。

5:15 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、【主】が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、【主】は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。

●安息日に求められる事

週の第7日目(金曜日の日没～土曜日の日没)には一切仕事をしない

●安息日の目的

- ①全てのものを創造された神が、自分達をエジプトの奴隷状態から救い出し、今も共におられる事を感謝し、共に集まって礼拝する為。
- ②自らのリフレッシュの為。
- ③当時、立場の弱かった子供や、在留異国人、さらには奴隷たちまでもにも休みを与える為。
- ④神ご自身と神の戒めを離れては、真の安息はない事を知る為

【聖書箇所②】 マルコ 2:27～3:6 (新改訳聖書第3版)

2:27 「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたものではありません。」

3:1 イエスはまた会堂に入られた。そこに片手のなえた人がいた。3:2 彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。3:3 イエスは手のなえたその人に「立って真ん中に出なさい」と言われた。3:4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか」と言われた。彼らは黙っていた。3:5 イエスは怒って彼らを見回し、その心のかたくななのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。3:6 そこでパリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちといっしょになって、イエスをどのようにして葬り去ろうかと相談を始めた。

●安息日に病人をいやす

当時の人々は、安息日の本来の目的を見失い、仕事をしないという事だけにとらわれていた。又、病人を治療する事は労働にあたり、神の戒めをやぶる事だと考えていた。

●パリサイ派とヘロデ党の人々

主義主張が全く異なり、普段は仲が悪かった。にもかかわらず、主イエスを亡きものにする為には、手段を選ばず手を組んだ。そらだけ殺意が強かった事を示す。

1: 私達は、安息日・神の戒めの“神髄”をいつも覚えよう

主イエスの時代になると、形式上は安息日や神の戒めを守ってはいるがその意図や目的を見失っていた。本来、弱い者にも心を配る為に安息日が制定されていたにもかかわらず、肉体の弱さを持つ人に対する配慮が失われていた。そればかりか、人を生かすかすためではなく、主イエスを殺す相談をする為に安息日を用いていた。

安息日だけでなく、神の戒めの中心は、「神を愛し、隣人を愛する」事である。そして、神の戒めを守る事を通して、私達は周りの人を幸せにし、又、私達も神の祝福を受けて幸せになる為に、戒めが与えられたのである。

何の為に、自分は働き、また休むのか、何の為に、自分は教会や家庭、地域で奉仕するのか、何の為に、自分はみ言葉を教えるのか、その目的は「神を愛するゆえに、その人を愛し、その人を活かす為である」という事をいつも心に刻んで、行動する者となろう。

【聖書の約束】 マタイ 22:37～40

22:37 そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 22:38 これがたいせつな第一の戒めです。 22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。 22:40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

●メモ 心に残った事、決心した事など

2: 私達は、安息を与えて下さった“救い主なる神”をいつも覚えよう

エジプトでは、王(パロ・ファラオ)が神として祀られていた。しかし、神と称していたエジプトの王のもとでは、イスラエルの民は、奴隷として、毎日のように苦しい労働に追い立てられ、あげくには自分の子供(男の子)の命まで奪われる状況の中、とても安息などない状況であった。

しかし、神はイスラエルの民の叫びに心をとめ、様々な奇跡によって解放された。それは、彼らが神の戒めを守ったからではなく、一方的な神の憐みであった。安息日をはじめとする神の戒めは、救い出された者が、その戒めを守るという行為を通して、絶えず自らを救い出して下さった神を覚える事が土台であった。何故なら、神との関係を抜きに、真の安息や、永続する幸せはないからである。

神は、罪とその呪いの元に奴隷とされていた私達をも主イエスの死と復活を通して解放して下さいました。主イエスを通して、私達は全ての罪が赦され、心が新しく造り変えられ、神と共に歩む人生が与えられ、天国の祝福が与えられた。何よりも、神は御子イエスキリストの命を与えるほどの愛をもって、今も私達を愛しておられる。神の愛と救いの恵みを覚えれば、覚えるほどに私達の心は安息に包まれる。

だからこそ、私達は救い主である神を覚え、神の安息に包まれる為に、特別に日や時間を聖別して捧げるものとなろう。

●考えてみよう あなたは、救い主である神を覚えて、神を礼拝する為に、どのように日や時間を聖別していきたいですか。
